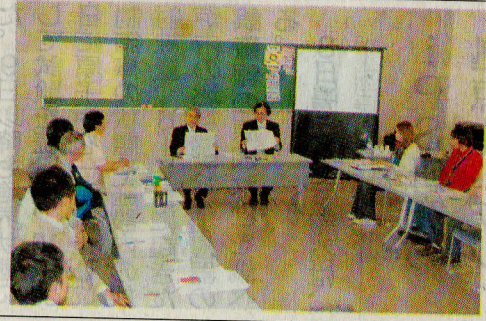


カウンセリングなど研修 県立相模向陽館高 NPOと協働協定

多部制(午前部・午後部)定時制高校として4月に開校した県立相模向陽館高校(座間市ひばりが丘、伊藤昭彦校長、299人)は8日、教員がカウンセリング手法を身に付けることなどを目的とし、NPO法人日本リアリティセラピー協会(理事長・柿谷正期立正太学教授)と協働するための協定書の調印式を行った。写真。

同協会は、米国のウィリ

アム・グラッサー博士が提唱した、よりよい人間関係を築く心理学「選択理論」などの普及に努めている。同校では、人間関係構築がうまくいかないことで不



登校などを経験してきた生徒を積極的に受け入れている。このため、教員が「生徒と教員との確かな関係」をつくるカウンセリング手法を身に付け、生徒や保護者も含めて自分の気持ちや考えをうまく表現していく「ライフスキル」を向上させようと今回の協定となった。

この日は約20人の教員が選択理論の研修を受けた。今後、同協会との協働で生徒・保護者向けの講演会や、教員、生徒を対象にしたカウンセリングなどを行っていくという。

(鎌田 良一)